

尿路感染症の治療



検査トピックス



感染症診断

細菌検査

検査日数

尿定性

- 細菌 (+)、亜硝酸塩 (+)

尿沈渣

- 白血球 5 ~ 9 /HPF以上
- 細菌グラムPOSorNEG

経験的治療※1

- グラム染色の結果を参考

特定菌 (標的) 治療※2

- 最適抗菌薬の投与

尿培養

- 起炎菌特定

感受性結果

- MICを参考

1 日目

※1 経験的治療

- 感染臓器から複数の細菌をカバーした抗菌薬を選択

3 日目

※2 特定の (標的) 治療

- 細菌検査の結果から起炎菌を特定し最適な抗菌薬を選択

4 日目

MICの結果を活用

例えば

尿沈渣より「グラム陰性菌」検出

尿路感染症の起原菌は大腸菌* が一番多い

*大腸菌はグラム陰性桿菌

「大腸菌」の可能性大

ペニシリン系ではなくセフェム系を投与

感受性の結果からセフェム系には感受性があるので継続して治療

検査項目	検査成績	最終報告	合計実測料	424 点
目的菌	緑膿菌：- 大腸菌：+	MRSA：-		
塗抹培養	グラム陰性桿菌：3+	3+ 大腸菌	64	
定量培養	①E.coli 10 ⁶ /mL		180	
コメント	フルオロキノロン耐性大腸菌を認めます。			

薬名	感	中	耐	MIC値
ペ ABPC	S			8
ペ T/P	S			16
ペ PIPC	S			16
ペ S/A	S			8
セ CEZ	S			2
セ CMZ	S			16
セ CAZ	S			1
セ CTRX	S			1
セ CPDX	S			1
セ FMOX	S			8
セ S/C	S			16
セ CFPN	S			1
テ MINO	S			4
ア GM	S			4
ア AMK	S			16
ク CP	S			8
リ AZI	S			1
リ ST	S			40
リ FRPM	S			1
カ IPM	S			1
カ MEPM	S			1
ニ OFLX	R			8
ニ CPFX	R			4
ニ LVFX	R			8
リ FOM	S			64

ア：アミノ配糖体系 カ：カルバペネム系 ク：クロラムフェニコール系 セ：セフェム系 テ：テトラサイクリン系 MIC値：μg/mL
 ニ：ニューキノロン系 ペ：ペニシリン系 マ：マクロライド系 リ：リンコマイシン系 ソ：その他
 ※一般細菌薬耐感性試験 (S：感受性、I：中間、R：耐性、(**)：判定基準無し) 薬 託 先：CRC 検査責任者：東 田
 臨床宮崎 0984-52-6688

薬剤感受性MICについて

ブレイクポイント(MIC)とは臨床的に治療効果が期待できるMICと効果が期待できないMICの境目

CLSI (Clinical and Laboratory Standards Institute) のブレイクポイントに基づいている

MIC (最小発育阻止濃度) は菌種ごとに設定され、随時更新される

異なる薬剤についての「数字」は抗菌薬選択の基準にしてはいけない

検査材料		中間尿	最終報告	合計実施料	424 点
検査項目	目的菌	MRSA: -	検査成績		点数
塗抹		グラム陰性桿菌: 2+	グラム陽性桿菌: 少数		64
培養 同定		DE.coli	3+ 大腸菌		180
定量 培養		10 ⁶ / mL			

① 薬剤名	感	中	耐	薬剤感受性試験	薬剤名	感	中	耐
ベ AMPC	S							
ベ ACV	S							
ベ T/P	S							
ベ S/A	S							
セ CEZ	S							
セ CTM	S							
セ CAZ	S							
セ CTRX	S							
セ S/C	S							
セ CZOP	S							
セ CFPN	S							
テ MINO	S							
ア ISP	S							
ア ABK	S							
ソ ST	S							
ソ FRPM	S							
カ IPM	S							
カ MEPM	S							
カ DRPM	S							
ニ LVFX	S							
ソ FOM	S							

薬剤感受性SIRの判定

S (susceptible)	感性：推奨される投与方法・投与量でその薬剤が到達しうる組織濃度で菌の増殖を阻止でき治療に有効と考えられる
I (intermediate)	通常投与量では効果が低いが、大量投与や薬剤移行性の良好な臓器の感染症の場合には治療に有効とされる
R (resistant)	通常の投与方法および投与量では治療効果は期待できない
注意	判定が“S”とされる場合でも、菌種により耐性機構をもっている場合は“R”と判定される

MICは耐性菌の判定に必要

薬剤耐性菌	判定基準 (CLSI M100-S30) 微量液体希釈法
多剤耐性緑膿菌 (MDRP)	カルバペネムのいずれかが“R”かつ AMK ≥ 32 μg/mL かつフルオロキノロンのいずれかが“R”
多剤耐性アシネトバクター属菌 (MDRA)	カルバペネムのいずれかが“R”かつ AMK ≥ 32 μg/mL かつフルオロキノロンのいずれかが“R”